

農業技術 プリズム

県は1979年から、県内農耕地の土壌環境基礎調査（定点調査）を行っています。決められた24地区60圃場（ほじょう）を4年に1度調査し、2018年に9巡目が終了しました。

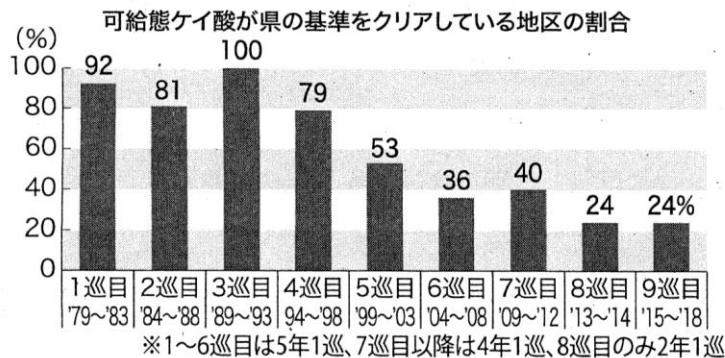
その調査結果から県内の水田土壌データを整理したところ、可給態ケイ酸は各地区とも4、5巡目（1994～2003年）の調査を境に減少しており、県の改良基準値（乾土100g当たり15mg）をクリアした地区の割合は、1巡目の92%から、9巡目が24%と激減。土壌のケイ酸が不足しています。可給態リン酸は、地区により違いが見られ、県北地域では県

の改良基準値（同10mg）より低い傾向です。諫早湾周辺地区は、基準値よりも非常に高い傾向にあります。

県内農耕地の土壌環境調査

ケイ酸不足が深刻化 リン酸は各地区で差

た。水田の可給態ケイ酸の低下は全国各地で報告があり、ケイ酸が不足すると水稻の生育・収量などに影響を及ぼします。



ケイ酸低下の要因は、ケイ酸資材や堆肥の施用量の減少、稲わら還元量の低下などが影響していると考えられており、今後調査を進めていく予定です。
（県農林技術開発センター 環境研究部門 土壌肥料研究室 平山裕介）